

チラシ合理化システムの開発

(平成2年度 中小企業庁技術改善費補助事業)

瀬上印刷 (株) ○盛満公平, 平田康治, 尾堂和幸, 濱崎 剛, 豊留正美

1. 目的

近年、印刷業において商業印刷物としてチラシが生産高を伸ばしている。その最終決定はクライアントの商品販売戦略から、掲載される商品やその価格決定までが、生産(印刷)の間際にまで伸ばされている。また、製版後の校正において非常に変更(訂正)が多く、訂正後の制作時間に対しては短縮の要求が強くなって来ている。

その要求に対するチラシ制作の合理化に関しては、有効なシステムが開発されていない。その理由は、印刷会社とクライアントとの制作体制は、地域性や取り扱い商品の流通事情から複雑なものになっており、標準化が困難である事に起因する。現在、製版設備メーカーはデジタル生産設備の開発を急ピッチで進めており、数社から上市されているが、全て汎用性の高いシステムとなっている現状である。

当社の研究開発では、この様な状況の中で、一番複雑とされているチラシの制作工程を合理化するシステムを開発する事が目的である。

チラシのデザイン決定者であるデザイナーからパソコンを使い、デザイン作業をデジタル処理し、中間データでの校正を行い、変更に対応し訂正終了時に製版フィルム出力する。これにより、デザイン紙からの版下トレース作業や、校正による製版作業のやり直し作業を軽減する。また、各制作工程の標準化を進め、データ処理に関してはデータベースを構築し、生産性・品質を向上させることを目的とする。

2. 設備・方法

優れたユーザーインターフェイスを有するMacintoshを使用し、DTP業界標準ソフトとも言えるAldus Free Hand, Adobe Illustratorを主に使用する。

その制作工程(Fig1)は、

1. クライアントから売り出し商品リストをもらう。
2. 商品リストをもとに、データベース化してあるチラシの基本的なデザインを利用し、Aldus Free Handで商品の枠・楕円・バクダンが破裂した様なマークなどの図形のデザインを興す。

3. 制作した線版（図形デザイン）を下絵とし、データベース化してあるロゴ・イラスト・レタリングと共に文字（商品のメーカー・商品名・規格・価格など）をレイアウトする。
4. ゲラ出し用プリンターで出力し、写真のアウトラインを書き込み、校正を受ける。
5. 訂正した後、印画紙出力する。
6. 製版・印刷する。

本来、Macintoshはチラシを作成するものではないため、数々の問題が生じた。その中で書体数の少なさが上げられ、それをカバーするためFont studio,Fontgrapherといった書体作成用のアプリケーションソフトで、チラシ作成に最小限必要な書体を作成した。

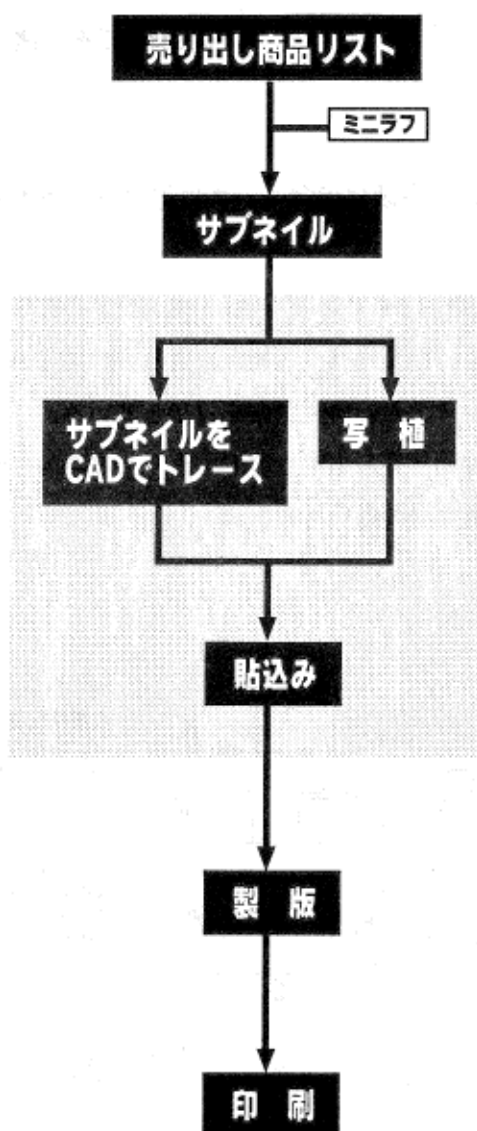
3. 結果

湖上印刷で制作するB4チラシのうち、約半分に当たる月間35面を処理している。なぜ、この数字に終わっているかと言うと、Macintoshで処理する上で、ある程度パターン化されていて、Macintoshの書体でカバーできるものに限られるためである。

時間的には、従来作業の制作時間とほぼ同じ3時間程度である。これは、従来作業が数人で同時に行っていたものを、Macintoshの場合1人で作業するためである。絶対的な時間短縮にはなっていないが、全体の効率は上がっている。また、クライアントとの申し合わせ次第で極力製版作業を少なくし、材料費を減らす事も可能ではあるが、チラシという特殊な印刷物であるため現状に終わっている。

上に挙げた、Macintoshの書体数の制限をクリアするため、電算写植機との連動を可能としている。また、写真処理のためのデータベースなどMacintoshを中心に各種製版機器との連動も着実に進んでいる。

従来工程



改善工程

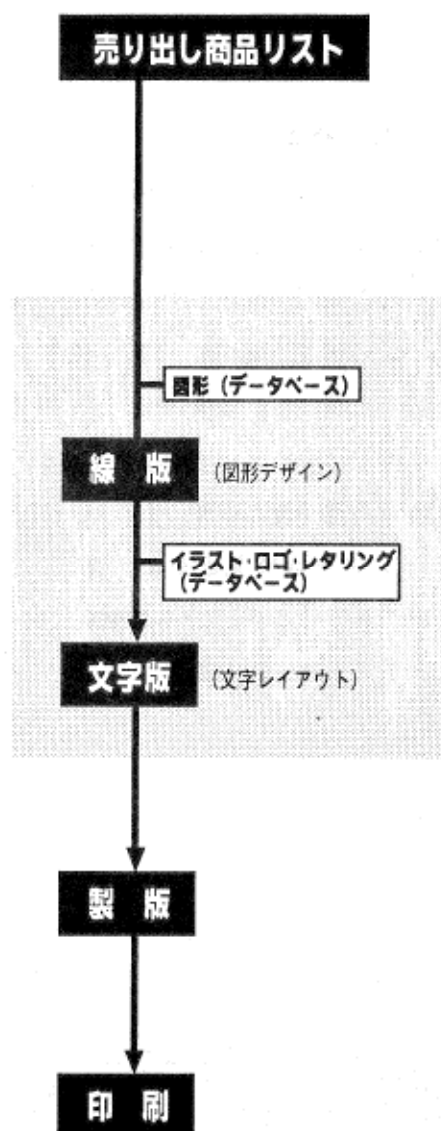


Fig 1 制作工程